

40847

教科書文庫

4
110
44-1942
2000021642

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



教科書文庫
4
110
44-1942
2000021642

本聯合女子青年團編

本科女子三年制用

青年學校教科書

修身及公民科 卷三

大日本教化圖書株式會社

375.9
Da 9

資料室

教科書文庫
4
110
44-1942
2000021642

大日本聯合女子青年團編

本科女子三年制用

青年學校教科書

修身及公民科 卷三

昭和十七年一月十日
文部省檢定濟
青年學校修身及公民科
本科女子三年制用

広島大学図書

2000021642



大日本教化圖書株式會社

修身及公民科

本科女子
三年制用
卷三

目次

一	大	國	民	年	中	教	養	德	姻	七	住	八
一	六	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	六	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	六	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	六	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

廣島大學
圖書印



勅語
詔書
令旨

教育ニ關スル勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツル
コト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシ
テ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育
ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦
相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修
メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣
メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ
義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キ

ハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺
風ヲ顯彰スルニ足ラン

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ
遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ
悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコ
トヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

戊申詔書

朕惟フニ方今人文日ニ就リ月ニ將ミ東西相倚リ彼此相濟
シ以テ其ノ福利ヲ共ニス朕ハ爰ニ益國交ヲ修メ友義ヲ惇
シ列國ト與ニ永ク其ノ慶ニ賴ラムコトヲ期ス顧ミルニ日
進ノ大勢ニ伴ヒ文明ノ惠澤ヲ共ニセムトスル固ヨリ内國
運ノ發展ニ須ツ戰後日尙淺ク庶政益更張ヲ要ス宜ク上下
心ヲ一ニシ忠實業ニ服シ勤儉產ヲ治メ惟レ信惟レ義醇厚
俗ヲ成シ華ヲ去リ實ニ就キ荒怠相誡メ自彊息マサルヘシ
抑、我カ神聖ナル祖宗ノ遺訓ト我カ光輝アル國史ノ成跡ト

ハ炳トシテ日星ノ如シ寔ニ克ク恪守シ淬礪ノ誠ヲ輸サハ
國運發展ノ本近ク斯ニ在リ朕ハ方今ノ世局ニ處シ我カ忠
良ナル臣民ノ協翼ニ倚藉シテ維新ノ皇猷ヲ恢弘シ祖宗ノ
威德ヲ對揚セムコトヲ庶幾フ爾臣民其レ克ク朕カ旨ヲ體
セヨ

御名 御璽

明治四十一年十月十三日

內閣總理大臣副署

國民精神作興ニ關スル詔書

朕惟フニ國家興隆ノ本ハ國民精神ノ剛健ニ在リ之ヲ涵養
シ之ヲ振作シテ以テ國本ヲ固クセサルヘカラス是ヲ以テ
先帝意ヲ教育ニ留メサセラレ國體ニ基キ淵源ニ溯リ皇祖
皇宗ノ遺訓ヲ揭ケテ其ノ大綱ヲ昭示シタマヒ後又臣民ニ
詔シテ忠實勤儉ヲ勸メ信義ノ訓ヲ申ネテ荒怠ノ誠ヲ垂レ
タマヘリ是レ皆道德ヲ尊重シテ國民精神ヲ涵養振作スル
所以ノ洪謨ニ非サルナシ爾來趨向一定シテ效果大ニ著レ
以テ國家ノ興隆ヲ致セリ朕卽位以來夙夜兢兢トシテ常ニ

紹述ヲ思ヒシニ俄ニ災變ニ遭ヒテ憂悚交至レリ

輓近學術益開ケ人智日ニ進ム然レトモ浮華放縱ノ習漸ク
萌シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスムハ
或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル況ヤ今次ノ災禍甚タ大ニ
シテ文化ノ紹復國力ノ振興ハ皆國民ノ精神ニ待ツヲヤ是
レ實ニ上下協戮振作更張ノ時ナリ振作更張ノ道ハ他ナシ
先帝ノ聖訓ニ恪遵シテ其ノ實效ヲ舉クルニ在ルノミ宜ク
教育ノ淵源ヲ崇ヒテ智德ノ竝進ヲ努メ綱紀ヲ肅正シ風俗
ヲ匡勵シ浮華放縱ヲ斥ケテ質實剛健ニ趨キ輕佻詭激ヲ矯
メテ醇厚中正ニ歸シ人倫ヲ明ニシテ親和ヲ致シ公德ヲ守
リテ秩序ヲ保チ責任ヲ重シ節制ヲ尙ヒ忠孝義勇ノ美ヲ揚

ケ博愛共存ノ誼ヲ篤クシ入りテハ恭儉勤敏業ニ服シ産ヲ
治メ出テテハ一己ノ利害ニ偏セスシテ力ヲ公益世務ニ竭
シ以テ國家ノ興隆ト民族ノ安榮社會ノ福祉トヲ圖ルヘシ
朕ハ臣民ノ協翼ニ頼リテ彌國本ヲ固クシ以テ大業ヲ恢弘
セムコトヲ冀フ爾臣民其レ之ヲ勉メヨ

御名御璽

攝政名

大正十二年十一月十日

國務各大臣副署

青少年學徒ニ賜ハリタル勅語

(昭和十四年五月二十二日)

國本ニ培ヒ國力ヲ養ヒ以テ國家隆昌ノ氣運ヲ永世ニ維持
セムトスル任タル極メテ重ク道タル甚ダ遠シ而シテ其ノ
任實ニ繋リテ汝等青少年學徒ノ雙肩ニ在リ汝等其レ氣節
ヲ尙ビ廉恥ヲ重ンジ古今ノ史實ニ稽ヘ中外ノ事勢ニ鑒ミ
其ノ思索ヲ精ニシ其ノ識見ヲ長ジ執ル所中ヲ失ハズ嚮フ
所正ヲ謬ラズ各其ノ本分ヲ恪守シ文ヲ修メ武ヲ練リ質實
剛健ノ氣風ヲ振勵シ以テ負荷ノ大任ヲ全クセムコトヲ期
セヨ

皇太子殿下令旨

(大正九年十一月二十二日)

國運進展ノ基礎ハ青年ノ修養ニ須ツコト多シ諸子能ク内
外ノ情勢ニ顧ミ恆ニ其ノ本分ヲ盡シ奮勵協力以テ所期ノ
目的ヲ達成スルニ勗メムコトヲ望ム

廣島大學
圖書印

修身及公民科

本科女子
三年制用

卷三

一大國民

我が國民性の由來 個人に個性が存するやうに、國民にもそれ
ぞれ特性が現れてゐる。これが國民性である。國民性は、國民の
環境と生活に由來する。人類が國家を組織して、多年協同生活を
續けてゐる間に、おのづから成立した特殊の性格が國民性である。
我が國民は、肇國以來、萬世一系の天皇の御稜威の下に協力親和
して、この國土を開發して來た。この世界に類なき歴史を背景と
して、こゝに忠君愛國を中樞とする美はしい國民性がおのづから

生じた。大伴家持が、

海行かば 水漬く屍 山行かば 草生す屍
大皇の 邊にこそ死なめ 願みは爲じ

と歌つたこの精神は、遠い私達の祖先から傳へられて、今も變らぬ我が國民性の根柢となつてゐる。

我が國民性の長所短所 かやうに我が國民性は、肇國の事實に由來するもので、その長所を擧げると、

第一に忠君愛國の精神を以て一貫し、義勇奉公の熱誠が溢れてゐることである。七生報國を誓つた楠木正成の忠誠をはじめとして、忠臣の事蹟は枚擧に違ないほど多い。近くは、上海事變に於ける廟行鎮の爆彈三勇士、支那事變に於ける幾多の壯烈極る將士の武勳は、何れも我が國民性の特色をよく發揮してゐる。

第二は報本反始、祖先崇拜の念に厚いことである。靈時を鳥見



靈 峰 富 士

の山中に設け、大孝を申べたまうた神武天皇の御盛徳は申すも畏し、祖先崇拜、家名尊重の至情のあらはれた美談は、頗る多く語り傳へられてゐる。

第三は清淨を尊び潔白を重んずることである。この國民性には、我が國土の大いなる影響が認められる。朝日ににほふ山櫻、田子の浦に仰ぎ見る富士の靈峰、これこそ眞に清淨の極みである。山紫水明の環境に恵まれた國民は、おのづから善を好みて惡を憎み、正に就きて邪を排し、直を愛して曲を嫌ひ、明朗快活な性格となつたのである。

第四は創造研究の精神に富み、眞理を探索する氣魄の旺盛なこ
とである。多くの科學的發明・發見や、和歌・俳句・繪畫・彫刻・茶道・華道
能樂・舞踊等に、この國民性がよく現れてゐる。

第五は同化力に富むことである。我が國は、早くから支那や印
度の文化を攝取して同化し、明治以後に至り、更に歐米の文化を吸
收した。しかも、これらの異國文化をよく國體に適合するやうに
醇化して、新しい文化を創造した。

かく多くの長所を有する我が國民性にも、また反省を要する短
所が少くない。その一は、清濁併せ呑む寛厚性に乏しいこと、その
二は、熱し易く冷め易くして堅忍持久の精神に缺けてゐること、そ
の三は、社會生活に熟せず公徳心の薄いことである。これらの缺
點を矯正して、大國民の品位を高めなければならぬ。

國民性の涵養 個人の修養と同じく、國民性の涵養も、長所を進

大國民の理想

め短所を匡すことによつて達成せられる。されば、私達は、光輝あ
る歴史をかへりみ、祖先が築き上げた傳統的の長所をますます發
揚し、一そう忠君愛國の誠心を磨くと共に、その短所を反省して、大
國民たるの襟度を養ひ、東西文化の攝取・醇化、新文化の建設に邁進
しなければならぬ。

今や我が國は、東亞の盟主として世界の永久平和を確保するた
めに、さきに國際聯盟を離脱し、近くまた支那事變に對處して、歴史
的・大使命の達成に進みつゝある。この國家の使命を自覺して、國
民性の涵養につとめ、國力を充實させ、世界の平和と人類の幸福に
寄與して、皇運を扶翼し奉ることは、我が皇國に生まれた臣民の本
分である。

設問

- 一、我が國民性の由來する所を説け。
- 二、我が國民性の長所と短所を擧げよ。
- 三、いかにして大國民の襟度を養ふべきか。

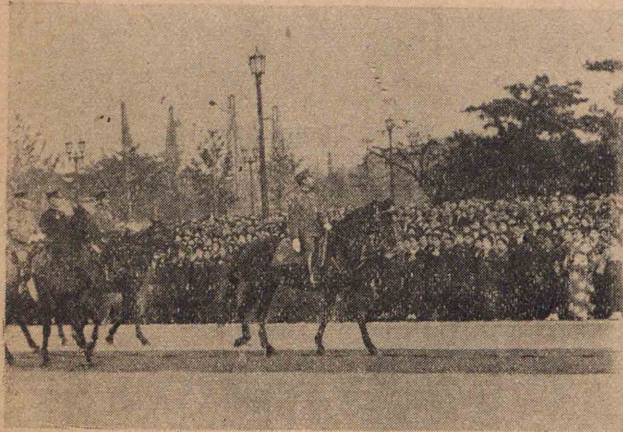
二 青年

長所
短所

青年の特性 人の一生に青年期ほど輝かしい日はない。青年は人生の春である。野にも山にも花咲き鳥歌ひ、見るもの聞くもの悉く活氣に充ちて、生々伸々とした明るい春の姿こそ、青年の特色でなければならぬ。理想に燃え、希望に輝き、信念のまゝに突進せんとする意氣に満つるのは、青年の長所である。しかし、その理想も希望も、これを實現する周到な手段が伴はなければ、單なる空想に終るであらう。こゝに青年の陥り易い短所がある。

青年の地位と責任 萌え出づる春の若草は、培養宜しきを得て、

明日の建設者



青年團親閱(昭和五年十一月三日)

はじめて、伸々と成長して行く。青年もまた、その修養と努力によつて、十分に天分を發揮し、時代の文化を建設する大任を全うすることが出来る。大正九年、全國の青年代表に賜御はつた皇太子殿下の令旨にも、
 國運進展ノ基礎ハ青年ノ修養ニ須
 ツコト多シ諸子能ク内外ノ情勢ニ
 顧ミ恆ニ其ノ本分ヲ盡シ奮勵協力
 以テ所期ノ目的ヲ達成スルニ勗メ
 ムコトヲ望ム
 と仰せられてある。次の時代の國運を雙肩に擔へる全國の青年男女は、夙夜修養を勵み、この優渥なる令旨に應へ奉り、皇運扶翼の道に邁進

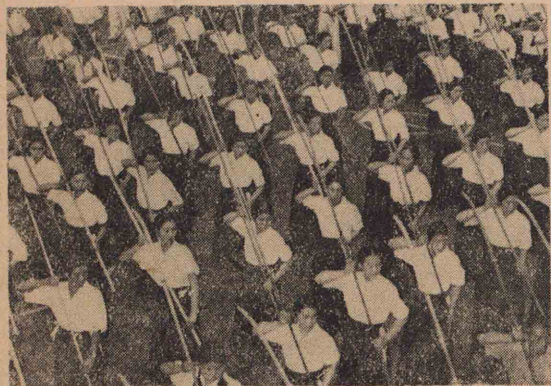
向上心

修養

現實と理想

しなければならぬ。
 若さの喜びと生活の充實 すが／＼しく輝かしい朝日の光は
 青年の象徴である。青年の全身には純真無礙、若草の如き心と、向
 上不斷、鐵の如き力とが溢れてゐる。若き日の喜びに優れる喜び
 は生涯の中にあり得ない。されば、青年たる者は、夕に省み朝に進
 んで天與の歡喜を感謝し、日々の生活を充實せしめて、大成を期す
 る覺悟をしなければならぬ。「少年老い易く、學成り難し」と古人
 も言つたやうに、歡喜の春は暮れ易く、忽ち秋風の訪れる日が来る。
 うか／＼と暮してはならない。理想の光を仰ぎながら、堅實に一
 歩一歩と倦まず撓まず實行の階段を前進せよ。理想なき生活は、
 羅針盤を失うて大海に漂へる船に等しく、堅實な實行の伴はない
 生活は箒を以て大空の星を掃ふの痴戯に終る。何れも深く戒め
 なければならぬ。

自制と自重



心の動揺と心の鍛錬 青年時代には、煩悶に襲はれて、心が動揺
 することも往々ある。その煩悶は、發育期の心身兩方面から生ず
 るもので、若し一步を誤れば、懷疑厭世
 に陥り、世の敗殘者となつて、可惜一生
 を無意味に失ふこととなる。されば、
 心身を鍛錬して、正しき批判力と自制
 自重力とを養ふと共に、虚心坦懐、父母
 兄弟姉妹、先輩の示教を仰ぎ、友人に相
 談して、懷疑煩悶に善處しなければな
 らない。

心身鍛錬

青年の友情協同 純真な青年の友
 情ほど尊く美はしいものはない。青
 年はこの友情を基として、互に勵まし慰め合つて、人物を磨き上げ、

青年團體

協同一致、郷土のために盡くし、郷土の振興や淳風美俗の助長などは多く地方青年團體の活動の賜であつた。

今や我が國は肇國以來曾てない重大時局に際會し、國民の總力が要求せられてゐる。全日本青年が協同の力を最高度に現はすべき時である。大日本青少年團はこの國家的要請に即應するために、地方青年團體を打つて一丸として組織せられ、私達はみなその團員である。

私達青年は、その重大な使命をおもひ、共勵切磋、確乎不拔の國民的性格を鍊成し、高度國防國家の原動力は我なりの信念を以て奮起しなければならぬ。

設問

一、大正九年青年に賜はつた皇太子殿下令旨を奉誦して青年の覺悟を述べよ。

三世の中

- 二、青年期の懷疑煩悶に善處する用意如何。
- 三、大日本青少年團の本質及び現状を語れ。

家と己

社會と己

全體と個 巍々たる高山も、一粒一粒の土壤より成り、洋々たる海洋も、一滴一滴の水の集れるものである。個は常に全體の要素として存在し、全體を離れて個は存立しない。人のこの世に生まれ出づるや、先づ父母祖父母の慈愛に浴し、兄弟姉妹等と共に成長する。單獨に生まれ、孤立して生活する人間といふものはない。人はみな國家社會の恩恵を受けて生活してゐる。衣食住は、これみな社會の賜であり、私達が枕を高くして眠ることを得るのは、國法によつて社會の安寧秩序が維持されてゐるからである。國家社會を離れて、私達は一日も生活することが出来ない。されば、私

國家と己

達が社會の秩序を重んじ國威の發揚に努力するのは、誠に當然の義務である。

協力和合 社會生活には協力和合が最も必要である。各自が利己心を抑制して他人の名譽を尊重し、協力和合しなければ、社會生活は成り立たない。

團體生活

他人の名譽の尊重

家族の協力和合によつて一家は繁榮し、市町村住民の協力和合によつて郷土は振興し、國民の協力和合によつて國家は發展する。協力和合は、團體生活發展の基礎である。協力和合しなければ、團體の發展といふこともなく、幸福な生活を營むことも出来ない。協力和合が團體生活發展の基礎となり、人間に大きな福利を與へることは、産業組合や商工業組合の例によつても明らかである。私達は、共存共榮の精神に目ざめ、相互に他人の名譽を尊重して協力和合し、團體生活の發展を圖らなければならぬ。

開拓者

隠れたる努力

個の力

團體は個人を要素として成り立つてゐる。團體を發達せしめるものは個人の力である。世界の文化、人類の福祉に貢獻する偉業も、淵源するところは個人の力にある。佛教やキリスト教のやうに、人類に偉大な感化を及した宗教も、個人の思想に胚



胎せるものであつた。發明王エヂソンは、キネトフォンの發明に成功した時、視覚と音響の同期化といふことは、私の古くからの考へをやつと實現したものに外ならぬ。これが何かの形で私の胸に

宿つてから、三十年以上にもなる」と述懐してゐる。この驚くべき大發明も、個人の尊い苦心努力の結晶である。大事業の蔭には、隠れた人々の力の潜んでゐることが多い。私達は、聖者偉人を敬慕すると共に、無名の人々の努力にも大いに感謝し、また國家のため

に隠れた努力を捧げる覺悟を持たなければならぬ。

社會の恩 私達が國家社會から受ける恩恵は、甚だ深くして、かつ廣い。私達が今日のやうな文化生活が出来るのは、これみな國家社會の恩恵である。この恩恵がなかつたら、私達は、衣服もなく、食物もないみじめな生活をして、前途に何の望みもない暗黒の世界の中に、生きがひのない日を送らなければならなくなる。故に、私達は國家社會の恩恵を一日も忘れてはならない。

感謝報恩 恩恵を受けてこれを感謝し、報恩を志すことは、人情の自然である。この人情がなければ、人間といはれない。それは、貝原益軒がいつたやうに、禽獸と等しい者である。報恩の道は、自分の利害をかへりみずに、感謝の心をもつて奉仕することにある。この報恩の生活は、人倫道德の基礎である。

私達は、尊い皇國の民と生まれて、大君の恩親の恩衆人の恩天地

自然の恩を受けて、かく幸福に生活してゐる。常にその恩恵を感謝して、報恩の誠を致さなければならぬ。

設問

- 一、例を擧げて全體と個の關係を説け。
- 二、社會の恩義を明らかにし報恩感謝の美德を語れ。

四 教 養

品 格 地位身分が高く、巨萬の財産を有する者の中にも、往々世間の擯斥・輕侮を受ける人がある。如何に學問があり、才能があり、財産があつても、品性人格に缺陷があつては、決して尊敬せられないものでない。品格は人にとつて最も大切なものである。人には高尚な氣品や風格がなければならぬ。智情意が圓滿に發達

規律

した統一ある人間の全體を人格といふ。高尚な品格の人とは、圓滿に發達した智情意を有し、國家社會のためによく統一ある活動をする者に外ならない。富貴權勢は人の欲する所であるが、品格がなければ何の役にも立たない。

社會的教養並に訓練 品格を高めるには、先づ規律節制を重んじ公德を守らなければならぬ。家庭生活に於ても、節制をみだり規律を無視すれば、健康を害して一家の和合を破るが、社會生活に於ては、特に分を守り規律に服することが必要である。この教養を缺いては、一日も社會の安寧秩序が保たれない。國憲國法をはじめとして、女子青年團の規則に至るまで、團體生活の基礎たる規定は、必ず遵守しなければならぬ。若し女子青年團員の一人に團則を無視する者があれば、忽ちその團體の統制は破れる。防空實施に際して、一人でも燈火管制を怠る者があれば、必ず敵機の乘

公德心

ずる所となり、全體の災害となること明らかであり、こゝに社會的教養並に訓練の必要が痛切に感ぜられる。我が國民の中には、社會生活に熟せず、公德心の缺乏してゐる者が少くない。公德心を養ふことは私達の急務である。

禮節 品格と禮節は最も深い關係を有してゐる。禮節は、人を敬ふ我が眞心を言語動作に現したものである。日常の動作進退から、國際間の儀禮に至るまで、禮節によつて相互の親善を加へ、和樂の中に好果を收めることが多い。誠意を缺いた禮儀は虚禮となる。さりとして誠意さへあれば、外に現れた動作はどうでもよいといふわけにも行かない。青年時代には、やゝもすれば、言語動作が粗野に陥り易い。互に相戒めて、人の輕蔑を受け、品格を損ずるやうなことがあつてはならぬ。しからば、禮節に適つた言語動作とはいかなる内容のものであるか。これは、時代の進歩や土地

禮儀作法

言葉遣ひ

の状況等によるので、必ずしも傳統的の形式のみを固執するにも及ばない。平素からよく研究しておいて、その場合毎に善處することを要する。女子は男子よりも、なほ一そうこの禮節について深く注意し、言葉遣ひや動作をしとやかにしなければならぬ。

交際 社會生活は、人と人との交際からはじまる。私達の交際は、その範圍が頗る廣い。近くは向ふ三軒兩隣から、遠くは外國の人々とも交際しなければならぬ。この交際の如何によつても、品格を高めまたは損ずることが多い。誠意を以て交はり、言語動作が時處に適すれば、他人に快感を與へ、紳士淑女の態度として賞讃を受けるが、これに反すれば、他人に不快の感を與へ、無禮作法と輕侮される。また禮を失したために、多年の親しい友情が次第に薄らいて、遂には越え難い溝を生ずることもある。交際上には、常に細心の注意を拂はなければならぬ。青年時代には、血氣

にはやつて細節に拘泥するを嫌ひ、豪放を喜ぶ傾向がある。嚴に戒むべきことである。また青年期には、特に良友を選んで交際しなければならぬ。古語にも、その友を見てその人を知る」とある。良友相互に切磋琢磨するところに、明るく輝かしい向上の道が開けて來る。

常識 日常生活上に極めて大切なことは、常識の修養である。簡易卑近な事柄に關する知識や、喜怒哀樂に對する萬人共通の感情や、自然、人事に對する適切な思慮判斷等を總稱して、これを常識といふ。例へば、手紙の書き方や挨拶の仕方を知らなかつたり、簡單な事件に判斷を誤るやうな者があれば、常識を缺いた人間として、世間のもの笑ひとなる。「豊富なる常識」「圓熟せる常識」といふ語は、この常識の發達を意味するものである。科學が日進月歩した今日の世の中に於ては、常に新しい科學常識を養ひ、時勢の進運に

生活の潤
娛樂

後れないやうに心がけなければならぬ。

趣味 醜を嫌ひ美を欲するは、人間の本能である。美を愛する感情を常に満足させることを趣味と呼んでゐる。趣味は、私達の生活に潤を與へ、激しい生存競争のために起りやすい焦燥氣分を和やかにさせる。私達の心を慰め快感を與へるものを、通常娛樂と呼んでゐる。一つの娛樂を絶えず嗜んでゐると、その娛樂がその人の趣味となる。健全な娛樂は、心身の疲勞を恢復させ、新しい奮闘的な活力を生ぜしめる。

明治天皇御製

いまの世におもひくらべて石上いそのかみ

ふりにしふみを讀むぞたのしき

多くの娛樂中でも、特に青年に獎勵したいものは讀書である。

讀書は、人類文化の全貌を知り、先哲の高風に接し、職業能率を増進

讀書の樂し
み

せしめる。讀書を樂しむの境地に進めば、人生にこの上の幸福はない。

趣味は人生に缺くことの出來ないものであり、その種類が非常に多い。若し高雅な趣味の涵養を怠れば、心身を害こたひ、一生を誤るやうなことになる。されば、趣味の選擇と涵養とは、青年の修養上頗る重要な問題である。

宗教心 すべての人間は、完全無缺を欲し、これにあこがれる。

この理想から描き出した全知全能の實在を神といひ、佛と呼び、人はこれに近づかうとする。これが宗教心である。宗教心の全然ない人はない。たゞその厚薄の程度を異にするのみである。宗教上の信念が厚く、信仰に生きてゐる人は、自己の力を過信せず、常に敬虔にして謙遜であり、歡喜を以て理想の光明を追求して已まないから、得意にも淡然とし、失意にも泰然として、人生の行路に蹉さ

跌するやうなことがない。宗教は年老いた人の閑事業のやうに考へるのは大きな誤りである。この宗教心に基づいて、古來、多くの宗教が現れた。我が國に於ては、神道と佛教とキリスト教が重なる宗教であり、何れも多く、宗派に分れてゐる。我が家の宗教は、祖先以來一家一族の信仰となり、その生活上に慰安と光明を與へて來たものであるから、それを輕視してはならない。

設問

- 一、品格の重要なわけを説明せよ。
- 二、社會的教養並に訓練の必要な所以を述べよ。
- 三、交際及び禮節の大切な所以を説け。
- 四、我が家の宗教について語れ。

五 婦 德

貞淑と聰明 男子と女子とは、その性質を異にしてゐる。男子には男子の本分があり、女子には女子の本分がある。良き妻となり、良き母となつて家政を整へ、一家の繁榮を圖り、子女を教養して、良き日本國民に育成するは、女子の尊い本分である。この本分を全うすることによつて、女子は、社會のために貢獻し、國恩に報いることが出来るのである。

女子の本分は、婦德を養ふことにある。貞淑と聰明は、婦德の中の主德である。節操固くして言語動作の淑やかなのを貞淑といひ、理智に長け、常識に富み、判斷の正しいのを聰明といふ。

女子の節操は、普通貞操といはれてゐる。貞操は、女子の生命ともいふべきものである。この德の缺けた者は、如何に才能がすぐ

れてゐても、容色が秀でてゐても、尊敬に値しない。淑やかな言語動作の中に毅然とした態度を持ち、貞操を守るためには、身命をもかへりみざるもの、これ眞の日本婦人である。



和宮親子内親王

孝明天皇の御妹にまします和宮親子内親王は、尊き御身を以て將軍徳川家茂に御降嫁かになつたが、畏くも宮は婦人として崇高無比の模範を垂れさせたまうた。宮には、日本女性の美質たる温順優美貞節その他のあらゆる徳を兼備したまうたのみならず、日本女性が大いに力を注がなければならぬ日新の修養、社會奉仕、盡忠報國の三點に實踐躬行の教訓を示したまうた。

その短き御一生は、誠に多事多難、御涙の乾く間もなき御境遇にあらせられた。たゞ一すぢに皇室のため、國家のために、獻身犠牲の御奮闘を遊ばされた、雄々しくもまた壯烈な御事蹟は、何人も日本婦人の鑑と拜し奉るところである。私達は、日本女性の最高典型にまします宮の御婦徳を朝な夕なに仰ぎまつり、日本婦人の本分を全うしなければならぬ。

思慮分別 女子の本分を全うするには、思慮分別がなければならぬ。女子の中には感情にはしり、小事に拘泥して判断をあやまり、思はぬ失敗を招く者が往々ある。女子は、家政の中心となり、生計の豫定を立ててこれを實行し、子女を教養して健全な發育を圖り、親戚及び隣人との交際を圓滿にしなければならぬ責務を有する。思慮分別を缺く言語動作が、家庭生活、社會生活に及す損失は、決して少くない。常に熟慮して實踐し、判断をあやまり輕率な

熟慮實踐

ことをしてはならない。

良き妻 貞淑聰明の美德を有し、思慮分別に富んでゐる女子は、良き妻であり、また良き母である。

一旦他家に嫁した以上、眞實の父母に對するやうに舅姑に事へ、家政をよく整へて、夫に後顧の憂を抱かしめざることは、妻として最も大切な心がけてある。女子の一生は、男子と異なり、その活動が華々しくなく、日常の生活も甚だ單調であつて變化に乏しい。しかし、その使命は大きく、その力は甚だ強いものである。恰もそれは、草木の種を抱いて温め濕す大地に等しい。やがてその種は芽ばえて成長し、空を掩ふ大木ともなり、紅黃白紫の絢爛を競ふ百花ともなるのである。

現代の社會に於ては、女子の中にも男子と同じく、職場に出て働く者が多くなつた。その境遇によつては、一定の職業に従事する

もよい。しかし、男子と女子とは、天分も體質も異なつてゐるので、外に出て男子と競争し、華々しく活動することのみを望み、家庭生活を厭ふやうになつてはならない。女子の本分は、内にあつて良妻となり、賢母となることである。この本分を全うするところに、社會奉仕の道もあり、國家の繁榮と人類の幸福への貢獻も出来ることを忘れてはならない。

母の尊さ 「女は弱し。されど母は強し。」といふ言葉がある。

世に母性愛ほど強くして尊いものはない。鳥はその卵の孵るまで、ひたすらその巢を守り、外敵の近づくを防ぎ、猿や犬の類も、その子のために一身を犠牲にすることを敢て省みない。況して人間社會には、母性愛のために、その身を棄てた美談が昔も今も甚だ多い。「涅槃經」には、次のやうな話が出てゐる。

「或る貧しい一人の女が、子供をつれて流浪してゐた時、風雨に遭

ひ、毒蟲に苦しめられ、ひどく苦しんだ後、河を渉らうとして押し流されたが、なほ子を離さず、遂に母も子も溺れて死んだ。」

これに類した實話は、今日でも非常に多く聞くとところである。この獻身的愛の力により、大地が種子を護つて、やがて雲を凌ぐ大木となすやうに、我が子を育て上げ、それを國家の柱石として送り出す母ほど世に尊いものが他にあらうか。

設問

- 一、婦徳中の最も主要なるものについて述べよ。
- 二、和宮親子内親王の御事蹟を謹話せよ。
- 三、母性愛が人を感動せしめた實話を述べよ。

六 婚 姻

人生と婚姻 婚姻は人生の重大事である。婚姻によつて、性質を異にする男女が結合し、互に相倚り相扶けて協同生活を営む。そこに人生の歡びがあり、向上發展の基礎がある。しかし、我が國の家庭は、たゞ幸福な夫婦生活のみが主眼ではないから、婚姻にも祖孫一體の生命を有する家のためといふ特殊な目的を有してゐる。されば、婚姻に際しては、この重大な意義を忘れず、慎重に考へなければならぬ。

配偶の選擇 婚姻に最も重要な問題は配偶の選擇である。世間には、徒に外觀や形式のみに拘泥して、選擇を誤る者が多く、また故なき迷信や虚榮などのために良縁を逸する者もある。今日なほ根強い力をもつてゐる丙午の迷信のやうなものは、斷乎として

これを一掃しなければならぬ。婚姻の眞義を徹底させるには、本人のみならず、父母・先輩・媒酌人等が協力して、配偶者の健康・遺傳・人格・徳操・生活能力・趣味等を厳密に調査し、かつ適當な監督の下に、相互に相識る機會を多くして、雙方の理會を深め、その意志の一致を見た上で、婚姻の成立に進まなければならぬ。本人の意志を無視した結婚には、往々悲劇を招くことがある。容姿や財産のみを主要條件とする時は、後日に悔を残すことが多い。

婚儀 婚約が成立すれば、日を選んで儀式を挙げ、親戚友人等に披露して、新しい生活に入り、希望に満ちた人生の首途に上ることになる。婚儀は、一世一代の儀式であるから、嚴肅にして誠意の籠つたものでなければならぬ。然るに、我が國には、婚姻の精神を忘れて、徒に繁雜な形式に走り、所謂長夜の宴を張り、新婦の衣裳の華美を競ふやうな弊風があつて、それがために失費が多く、家庭

簡素にして
嚴肅

婚姻届

の悩みとなつてゐる。生活改善の聲が盛になつて、この弊風が次第に矯正せられつゝあるのは、まことに喜ばしい傾向である。

婚儀の擧式と同時に、法律上の手續をふみ、婚姻届をすることを忘れてはならない。若しこの手續を怠れば、いかに嚴肅な婚儀を擧げ、盛な披露をしても、内縁關係に止り、夫婦として法律の保護を受けることが出來ず、その間に生まれた子は、私生子又は庶子として取扱はれ、他日の紛糾を招くものになる。

夫婦の道 教育に關する勅語にも、「夫婦相和シ」と夫婦の道を諭したまうてある。一旦夫婦となつた上は、相互に和して圓滿な家庭生活をして行かなければならない。夫婦の道は、我が國傳統の美風たる夫唱婦隨に基づき、相互に敬愛して、一心同體となり、苦樂を共にし、その本務を勵むことにある。特に女子は貞操を重んじ、よく舅姑に仕へ、子女を愛育して行く大切なつとめを忘れてはな

らない。かくて、こゝに和氣堂に満つる幸福な家庭が成り立ち、これがやがて家門の繁榮となり、國家の發展となるのである。

設問

- 一、我が國に於ては、婚姻が特に重大なるわけを語れ。
- 二、いかにして良き配偶を選択すべきか。

七 住みよき社會の建設

他人の幸福を喜ぶ心、他人の長所を見る眼。何人もみな不幸な人には同情するが、他人の幸福を見ると、却つてこれを羨み妬む心が起り易い。甚だしいのは、自己の幸福を得るために、他人の幸福を犠牲にして顧みない者もある。これが争鬭の原因となるのである。かく他人の幸福を顧みず、たゞ自己の幸福のみを求めよう

とすれば、結局自己の幸福も求めることが出來ず、自他ともに不幸に陥ることになる。孔子は、「己の欲せざる所を人に施す勿れ」と教へ、佐藤一齋は、「春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら肅む」といつた。何れも人間の利己心を戒めて、共存共榮の住みよき社會を建設する道を示した金言である。自己の幸福を望み、自己の長所の發揚を希ふ心を押し擴め、他人の幸福を喜び、他人の長所を認めるところに、明朗平和な社會が生まれて、共存共榮の實が擧がる。

現代の世相 社會生活が複雑となるにつれて、生存競争が激しくなり、生活難に悩む者が多くなるのは、世界各國に共通の現象である。これがために、世相の表面にまでも、險惡な空氣が漂うて來る。世界中が不安の底に喘ぎ苦しんでゐる現代の空氣を緩和して、住みよき明朗な社會を建設することは、人類共通の責任である。我が國は、現在、支那事變の難局に直面し、東洋平和のための聖戰に

多大の犠牲を拂つてゐる。しかも國內には犯罪・疾病・災害・生活難等の憂ふべき社會的病弊が跡を絶たない。この内外の難關を突破して、住みよき社會を建設することは、我が國民の大いなる努力を要する問題である。

公安 住みよき社會を建設するには、先づ共存共榮の根本精神に基づいて、社會の公安を保持しなければならない。これがために、警察を置いて他に迷惑を及すものを取締つてゐる。しかし、社會の公安は、各個人が自ら進んで社會の規則に服従することによつて始めて保持せられる。民衆が自ら進んで協力しなければ、警察の努力も、その實績を擧げることが困難である。例へば、警察に於て、いかに防火に注意しても、民衆が警察と協力して警防に努めなければ、その効果をあげることが出来ない。

博愛同情 私達は、たゞ社會の公安保持に協力するばかりでな

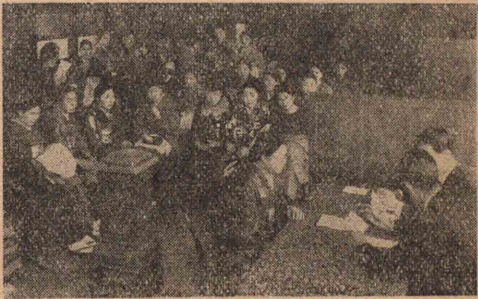
警察と公衆
との協力
災害防止

く、更に博愛同情の精神を以て、他人の幸福を増進する事業に奉仕しなければならぬ。博愛同情は社會生活上に最も大切な道徳である。儒教の仁も、佛教の慈悲も、キリスト教の愛も、みなこの博愛同情を説いたものに外ならぬ。

英國のコンウォールリトは、群馬縣の草津に於て、八十歳の高齡に達するまで二十年間、不幸な癩患者の救護に盡瘁した。野口英世は黄熱病の慘害から人類を救ふために、アフリカの蠻地に斃れた。その生涯を人の忌み嫌ふ癩患者のために奉仕し、黄熱病の研究に生命を賭するやうなことは、博愛同情の精神の徹底した神に等しい偉業である。かゝる精神の人が増加すれば、社會は忽ち明朗となり、世界は無上の樂土と化するであらう。

社會事業 世の中には、博愛同情の心に富み、獻身的に社會奉仕をしてゐる篤志家も尠くない。然るに、現實には、なほ不幸に惱め

る人が甚だ多い。疾病、災害等のために、生活の脅威を受けてゐる者もあり、就職難、失業難等に苦しんでゐる者もある。窮迫して國法に觸れる者も絶えない。



職業紹介所

かやうな悩める者や病める者を救ひ、住みよき社會を建設するため、社會事業の施設と社會政策の樹立が、輒近特に重要視せられるやうになつて來た。社會事業は、貧困、疾病、犯罪等の社會疾患を防止し、救治する施設であつて、政府や公共團體の外、社會改善を目的とする各種の團體や、篤志の人々によつて營

まれ、その種類も數も甚だ多い。

社會政策 住みよき社會を實現するために、政府や公共團體が法律命令の力によつて、各種の制度や組織を實施するのが社會政

策である。社會政策の中には、社會問題の發生を未然に防がうとするものと、既に發生した社會問題を正しく解決しようとするものがある。

社會の疾患を救治する社會事業や社會政策も、國民が政府や公共團體と協力しなければ、その効果を擧げることが出来ない。されば、私達は、他人の幸福を喜び、他人の長所を發揮させる根本精神から、消極的には社會の公安保持に努め、積極的には博愛同情の精神を以て、幾多の社會事業、社會政策に協力し、常に現代世相の實情を察して、先づ郷土の健全を圖り、次第に近きより遠きに及すことを必要とする。

設問

一、現代の世相について感ずる所を述べよ。

- 二、住みよき社會を建設するにはいかにすればよいか。
- 三、社會事業の實例をあげて、その施設を述べよ。

ハ 人生の喜び

自己の社會的並に國家的意義 私達は、社會の中に生まれ、社會の中に生存してゐる。私達は、社會の一員であり、大日本帝國の臣民である。我が身體も精神もわれ一人のものではない。自己の社會的意義並に國家的意義を自覺し、國家社會に奉仕することが眞に生きがひある生活である。

個人が自己の社會的意義、國家的意義を自覺して、自重することは國家社會を進歩發展せしめる基礎である。私達は、日本國民として、昭和の聖代に生を享けてゐる。この躍進日本の將來は、青年男女の雙肩に繋つてゐることを自覺して、その重大な責任を感じ、

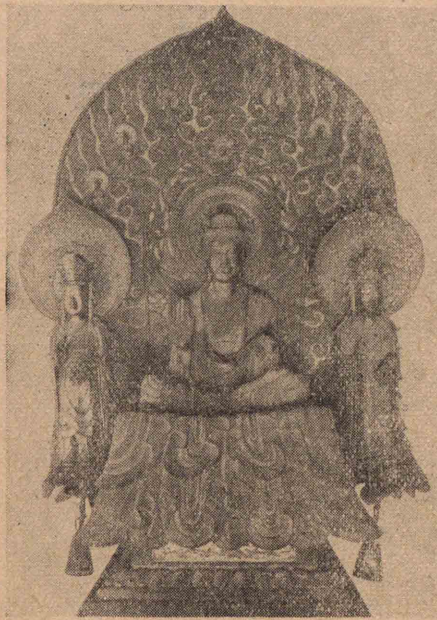
自重しなければならぬ。

人類文化に對する貢獻 私達の文化生活は、祖先から傳へられた尊い遺産である。現代の文化には、粒々辛苦血涙のにじんだ先人の努力が潜んでゐる。この文化の恩恵を受けて現代に幸福な生活を營む私達は、報恩感謝の心を以て文化の發展に貢獻する努力をしなければならぬ。これが私達の責務である。

世界の人々は、エヂソンが出て活動寫眞やトーキー等の高雅な娛樂に心を慰めることが出來、マルコニーが出て、無線電信やラヂオの恩恵を受けることが出来るやうになつた。人類文化に對する先人の貢獻を感謝し、この文化を更に一そう發展させることを忘れてはならない。

人生の怡樂 人間として、この世に生まれたことは、大いなる幸福である。殊に私達は、日本國民として、この聖代の恩恵に浴し、日

日の業務を勵み、一家團樂し、隣人相親しみ、安樂な生活を續けてゐる。終日の勞働を終へて家に歸れば、家族がほゝるみ迎へ、夕餉の膳に向へば、新鮮な野菜の手料理が備へられてゐる。食後の爐邊には父母、兄弟姉妹が團樂し、一日の業績を語り合ふ。女子青年團に於ては、同志の若者が相集つて、共に學び共に心身を鍛鍊する。



釋迦 (法隆寺金堂安置)

また部落の集會に出席すれば、年長者を中心に和氣霽々と生活改善の相談がはじまる。私達の身邊には、限りなき怡樂が溢れてゐる。
人は永遠に生く いか
に幸福な生活をしてゐる

人でも、死滅の運命から逃れることは出來ない。しかし、消えて行くものは、たゞこの肉體だけである。偉大な精神や非凡な事業は必ず永遠に遺るであらう。釋迦は入滅しても佛教は滅びず、キリストは歿してもその教は、今日まで多くの人々を教化してゐる。

私達は、萬世一系の天皇に仕へ、天壤無窮の國體を戴いてゐる。私達の生命は日本國家とともに永遠に存續する。楠木正成は湊川に戦死したが、その忠勇義烈は今に至るも滅びずに、我が國民精神を鼓舞してゐる。その外、幾多の忠魂義魄はいづれも無窮の皇運を扶翼し奉り、永遠の國家的理想の中に生きてゐる。

私達は、この尊い自己の生命の國家的意義を自覺し、理想を高く掲げて、文化の建設に力を盡くし、國民の本分を全うしなければならぬ。かくしてこそ、この一身は無窮に繋がる國民生活の連鎖の一環となり、そこに永遠の生命を保つことが出来るのである。

設問

- 一、自己の社會的竝に國家的意義を述べよ。
- 二、昭和の聖代に日本國民と生まれた悦びを述べよ。
- 三、「人は永遠に生く」とは如何なる意味か。

—(終)—

昭和十四年十月二十日印
 昭和十四年十月二十日發行
 昭和十五年一月二十日修正印刷
 昭和十五年一月二十日修正發行
 昭和十六年十二月十日修正印刷
 昭和十六年十二月二十日修正發行

著作
所有

著作者

印刷者兼

印刷所

發行所

青年學校教科書 修身及公民科
 本科女子三年制用 卷三

定價 金拾貳錢

大日本聯合女子青年團
 代表者 吉岡彌生

東京市芝區芝公園十二號地
 大日本敎化圖書株式會社
 代表者 川口芳太郎

東京市芝區西芝浦三丁目二番地
 大日本敎化圖書株式會社印刷所

大日本敎化圖書株式會社
 電話芝(43)三四三四・四〇二〇番
 振替口座東京一〇一〇七三番

北村生夫村舎文庫

山崎千代

広島大学図書

2000021642

